

【第三章】

1. プソイドエフェドリン塩酸塩配合の鼻炎用内服薬とパーキンソン病治療薬セレギリン塩酸塩との併用を避ける理由はどれか。

1. プソイドエフェドリンの効果が消失する。
2. プソイドエフェドリンの副作用が現れやすくなる。
3. セレギリン塩酸塩の効果が消失する。
4. セレギリン塩酸塩の副作用が現れやすくなる。

2. 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって、その充血や腫れを和らげることを目的としたものはどれか。

1. パンテノール
2. グリチルリチン酸
3. ベラドンナ総アルカロイド
4. クロルフェニラミンマレイン酸塩
5. フェニレフリン塩酸塩

3. プソイドエフェドリン塩酸塩の添付文書等における「次の人は使用しないこと」に関する次の記述のうち、正しいものを全て選べ。(第五章からの出題)

- a. 徐脈又は頻脈を引き起こし、心臓病の症状を悪化させるおそれがあるため、心臓病の診断を受けた人は服用しないこととされている。
- b. 喘息発作を誘発するおそれがあるため、ぜんそくを起こしたことがある人は服用しないこととされている。
- c. 肝臓でグリコーゲン分解して血糖値を上昇させる作用があり、糖尿病を悪化させるおそれがあるため、糖尿病の診断を受けた人は服用しないこととされている。
- d. 尿の貯留・尿閉を生じるおそれがあるため、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人は服用しないこととされている。

1.(a,d) 2.(a,b,c) 3.(a,c,d) 4.(b,c,d) 5.(a,b,c,d)

4. 鎮咳去痰薬に配合されたメチルエフェドリン塩酸塩に期待される作用として、正しいものはどれか。

1. 延髄の咳嗽中枢に作用して、咳を抑える。
2. 気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる。
3. 交感神経系を刺激して、気管支を拡張させる。
4. 痰の中の粘性蛋白質に作用して、その粘りけを減少させる。

5. 眼に現れる医薬品の副作用に関する次の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。(第五章からの出題)

抗コリン作用を有する (a) を配合した医薬品を使用した場合、眼圧が (b) し、眼痛や眼の充血に加え、急激な視力低下を来すことがある。特に (c) がある人では嚴重な注意が必要である。眼圧の (b) に伴って、頭痛や吐きけ・嘔吐等の症状が現れることもあり、長時間放置すると、不可逆的な視覚障害を起こすことがある。

1. a フルスルチアミン塩酸塩 b 上昇 c 緑内障
2. a フルスルチアミン塩酸塩 b 下昇 c 白内障
3. a ブチルスコポラミン臭化物 b 上昇 c 白内障
4. a ブチルスコポラミン臭化物 b 下昇 c 緑内障
5. a ブチルスコポラミン臭化物 b 上昇 c 緑内障

6. 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）とその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. スコポラミン臭化水素酸塩は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗ヒスタミン成分である。
- b. 無水カフェインは、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されており、抗めまい成分の作用による眠気の解消のために配合されているわけではない。
- c. 胃粘膜への麻酔作用によって嘔吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として、局所麻酔成分が配合されている場合がある。
- d. ジメンヒドリナートは、外国において、乳児突然死症候群や乳児睡眠時無呼吸発作のような致命的な呼吸抑制を生じたとの報告があるため、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。

1.(a,b) 2.(a,d) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

7. 次の眼科用薬配合成分のうち、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助け目の調節機能改善効果を目的として用いられるものはどれか。

1. リゾチーム塩酸塩
2. ナファゾリン硝酸塩
3. ネオスチグミンメチル硫酸塩
4. アズレンスルホン酸ナトリウム
5. コンドロイチン硫酸ナトリウム

8. 一般用医薬品として皮膚に用いられるステロイド性抗炎症成分に関する記述について、正しいものを一つ選べ。

1. 主なステロイド性抗炎症成分としては、デキサメタゾン、プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル、ピロキシカム等がある。
2. 末梢組織の免疫機能を高める作用を示す。
3. 水痘（水疱瘡）、みずむし、たむし又は化膿している患部について、症状を改善させる作用を示す。
4. 広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象とするものではない。

9. 解熱鎮痛薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない分、他の解熱鎮痛成分のような胃腸障害は少なく、空腹時に服用できる製品もある。
- b. ボウイは、フトミミズ科の *Pheretima aspergillum* Perrier 又はその近縁動物の内部を除いたものを基原とする生薬で、古くから「熱さまし」として用いられてきた。
- c. イブプロフェンは、アスピリンに比べて胃腸への悪影響が少ないことから、一般用医薬品として、小児向けの製品もある。
- d. イソプロピルアンチピリンは、現在、一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分である。

1.(a,b) 2.(a,d) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

10. グリチルリチン酸に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. グリチルリチン酸を含む代表的な生薬成分であるカンゾウは、抗炎症作用を期待して用いられる。
- b. 化学構造がステロイド性抗炎症成分と類似していることにより、抗炎症作用を示すと考えられている。
- c. 医薬品では1日摂取量がグリチルリチン酸として400 mgを超えないように用量が定められている。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c)

11. 次の医薬品成分のうち、生じた血栓が分解されにくくなるため、それを含有することにより内服の一般用医薬品の添付文書等において、「相談すること」の項目中に、「次の診断を受けた人」として「血栓のある人（脳血栓、心筋梗塞、血栓静脈炎等）、血栓症を起こすおそれのある人」と記載することとされている成分はどれか。

1. 次硝酸ピスマス
2. トラネキサム酸
3. エテンザミド
4. グリチルリチン酸二カリウム
5. パパベリン塩酸塩

12. 歯痛薬又は歯槽膿漏薬の配合成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. ジブカイン塩酸塩 — 齲蝕を生じた部分における細菌の繁殖を抑える。
- b. グリチルレチン酸 — 歯髄を通過している知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮める。
- c. カルバゾクロム — 炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える。
- d. アラントイン — 炎症を起こした歯周組織の修復を促す。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

13. かぜ及びかぜ薬に関する記述について、正しいものを全て選べ。

- a. かぜとは、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称で、通常は数日～1週間程度で自然寛解し、予後は良好である。
- b. かぜの約8割はウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因で、細菌の感染は原因とはならない。
- c. かぜとよく似た症状が現れる疾患に、喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、髄膜炎、急性肝炎、尿路感染症等がある。
- d. かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものではなく、咳で眠れなかつたり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る対症療法薬である。

1.(a,b) 2.(b,c) 3.(a,b,c) 4.(a,c,d) 5.(b,c,d)

14. 鎮咳去痰薬に含まれる成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. コデインリン酸塩は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- b. ジヒドロコデインリン酸塩には、胃腸の運動を低下させる作用があり、副作用として便秘が現れることがある。
- c. メチルエフェドリン塩酸塩は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d. マオウの中枢神経系に対する作用は、同じ気管支拡張成分であるメトキシフェナミン塩酸塩に比べ弱く、依存性の心配はない。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

15. 胃の薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 胆汁未は、肝臓の働きを高める作用もあるとされるが、肝臓病の診断を受けた人ではかえって症状を悪化させるおそれがある。
- b. 制酸成分は、かぜ薬等でも配合されていることが多く、併用によって制酸作用が強くなりすぎる可能性があるほか、高マグネシウム血症等を生じるおそれがある。
- c. オウバクが配合された散剤は、苦味が強いのでオブラートに包んで服用するとよい。
- d. スクラルファートは、炭水化物、脂質、タンパク質等の分解に働く酵素を補う等により、胃や腸の内容物の消化を助けることを目的として用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

16. 胃の薬に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. アルジオキサは、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。
- b. ピレンゼピン塩酸塩は、排尿困難の症状がある人では、症状の悪化を招くおそれがある。
- c. テブレノンには、胃粘膜保護作用があり、特に重篤な副作用はない。
- d. リパーゼは、アセチルコリンの働きを抑え、過剰な胃液の分泌を抑える。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

17. 腸の薬の代表的な配合成分等に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 収斂成分を主体とする止瀉薬については、細菌性の下痢や食中毒のときに使用して腸の運動を鎮めると、かえって状態を悪化させるおそれがある。
- b. ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬は、主に食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いることはできない。
- c. ヒマシ油は、防虫剤や殺鼠剤を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒に用いられる。
- d. ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸で分解され、大腸への刺激作用を示す。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

18. 腸の薬の配合成分とその作用に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. タンニン酸ペルペリン — 瀉下
- b. センノシド — 止瀉
- c. ロペラミド塩酸塩 — 止瀉
- d. ジオクチルソジウムスルホサクシネート (DSS) — 瀉下

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

19. 瀉下薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. センナは、流産・早産を誘発するおそれがある。
- b. ダイオウは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行し、乳児に便秘を生じさせるおそれがある。
- c. 硫酸マグネシウムは、肝臓病の診断を受けた人では、高マグネシウム血症を生じさせるおそれがある。
- d. ピコスルファートナトリウムは、胃や小腸では分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。

1.(a,b) 2.(a,d) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

20. 点眼薬に配合される成分とその作用の関係が正しいものの組み合わせはどれか。

- a. ネオスチグミンメチル硫酸塩 — コリンエステラーゼの働きを抑える
- b. ビタミン B6 — 血管収縮し目の充血を除去する
- c. 硫酸亜鉛水和物 (硫酸亜鉛) — 新陳代謝を促し目の疲れを改善する
- d. コンドロイチン硫酸ナトリウム — 結膜や角膜の乾燥を防ぐ

1.(a,b) 2.(a,d) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

21. 衛生害虫と防除に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. ゴキブリの卵は、医薬品の成分が浸透しやすく、燻蒸処理を行うのが効果的とされている。
- b. イエダニは、吸血によって皮膚に発疹や痒みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。
- c. 有機リン系殺虫成分の殺虫作用は、アセチルコリンを分解する酵素 (アセチルコリンエステラーゼ) と不可逆的に結合してその働きを阻害することによる。
- d. シラミの防除には、殺虫成分としてフェノトリンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられるが、フェノトリンにはシラミの刺咬による痒みや腫れ等の症状を和らげる作用はない。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

22. 駆虫薬及びその配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵や腸管内以外に潜伏した幼虫（回虫の場合）には駆虫作用が及ばないため、それらが成虫となった頃にあらかじめ使用しないと完全に駆除できない。
- b. 駆虫薬はその有効成分（駆虫成分）が腸管内において薬効をもたらす局所作用を目的とする医薬品であり、消化管からの駆虫成分の吸収は好ましくない全身作用（頭痛、めまい等の副作用）を生じる原因となるため、極力少ないことが望ましい。
- c. カイニン酸の服用後、一時的に物が黄色く見えたり、耳鳴り、口渇が現れることがある。
- d. パモ酸ピルビニウムは、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

23. コレステロール及びリポタンパク質に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 低密度リポタンパク質（LDL）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。
- b. コレステロールは水に溶けやすい物質であるため、血液中では血漿タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。
- c. コレステロールは細胞の構成成分で、胆汁酸や副腎皮質ホルモン等の生理活性物質の産生に重要な物質である。
- d. 血漿中のリポタンパク質のバランスの乱れは、生活習慣病を生じる以前の段階では自覚症状を伴うことが多い。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

24. 高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b. ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等を目的として用いられる。
- c. リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合は、使用を中止する必要がある。
- d. パンテチンは、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きを期待して用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

25. 貧血と貧血用薬及びその成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 鉄分の摂取不足が生じた場合、直ちにヘモグロビン量が減少し、貧血の症状が現れる。
- b. 鉄製剤を服用すると、便が白くなることがある。
- c. 骨髄での造血機能を高める目的で、貧血用薬に硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- d. ビタミンC（アスコルビン酸等）は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

26. 滋養強壯保健薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. グルクロノラクトンは、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける作用がある。
- b. ガンマ-オリザノールは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分である。
- c. カルシウムは、骨や歯の形成に必要な栄養素であり、筋肉の収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。
- d. システインは、生体におけるエネルギーの産生効率を高めるとされ、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

27. きず口等の殺菌消毒薬及びその配合成分に関する記述について、正しいものを一つ選べ。

1. オキシドールは、作用の持続性や組織への浸透性が高い。
2. アクリノールは、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すように工夫されたものである。
3. クロルヘキシジン塩酸塩は、真菌類に対する殺菌消毒作用がある。
4. ベンザルコニウム塩化物は、石鹼との混合によって殺菌消毒効果が高くなる。

28. 禁煙補助剤に関する以下の記述について、誤っているものはどれか。

1. 大量に使用しても禁煙達成が早まるものでなく、かえってニコチン過剰摂取による副作用のおそれがあるため、1度に2個以上の使用は避ける必要がある。
2. 口腔内がアルカリ性になるとニコチンの吸収が低下するため、口腔内をアルカリ性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
3. 禁煙補助剤は長期間に渡って使用されるべきものでなく、使用期間は3ヶ月を目途とし、6ヶ月を超える使用は避けることとされている。
4. ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品（鎮咳去痰薬、鼻炎用薬、痔疾用薬等）との併用により、その作用を増強させるおそれがある。

29. 次の記述は、鎮暈薬（乗物酔い防止薬）の代表的な配合成分に関するものである。

正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 抗コリン成分は、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管の緊張を低下させる作用を示す。
- b. 抗ヒスタミン成分は、延髄にある嘔吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。
- c. 抗ヒスタミン成分として、ジフェニドール塩酸塩が配合されている場合がある。
- d. 抗コリン成分であるスコポラミン臭化水素酸塩は、消化管から吸収されにくく、抗ヒスタミン成分であるメクリジン塩酸塩と比べて作用の持続時間は長い。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,d) 4.(c,d)

30. ジフェンヒドラミン塩酸塩が含まれている内服アレルギー用薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 抗コリン作用を示すため、排尿困難の症状がある人では、症状の悪化を招くおそれがある。
2. 緑内障の診断を受けた人では、使用する前にその適否について、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。
3. 服用した後は、乗物又は機械類の運転操作をしても問題ない。
4. 吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがあるため、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。

31. 角質軟化薬及び化膿性皮膚疾患用薬の配合成分に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 硫酸フラジオマイシン（フラジオマイシン硫酸塩）は、細菌のタンパク質合成を阻害することによる抗菌作用を目的として用いられる。
2. スルファジアジンは、細菌のDNA合成を阻害することによる抗菌作用を目的として用いられる。
3. グリセリンは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることによる角質軟化作用を目的として用いられる。
4. 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。

【第三章 生薬・漢方薬】

1. かぜ（感冒）の症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する記述について、正しいものを一つ選べ。

1. 葛根湯は、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされ、重篤な副作用はない。
2. 麻黄湯は、体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの食欲不振、吐きけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状に適すとされる。
3. 柴胡桂枝湯は、体力虚弱で、神経過敏で気分がすぐれず胃腸の弱いもののかぜの初期、血の道症に適すとされる。
4. 小青竜湯は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。

2. かぜの症状の緩和に用いられる次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてマオウとカンゾウの両方を含む製剤の組み合わせはどれか。

- a. 葛根湯 b. 麻黄湯 c. 柴胡桂枝湯 d. 半夏厚朴湯 e. 小青竜湯

1.(a,b,e) 2.(a,c,d) 3.(a,d,e) 4.(b,c,d) 5.(b,c,e)

3. 次の咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まないものはどれか。

1. 半夏厚朴湯 2. 柴朴湯 3. 麦門冬湯 4. 麻杏甘石湯 5. 神秘湯

4. 循環器用薬及びその配合成分に関する記述について、正しいものを全て選べ。

- a. コウカは、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b. ヘプロニカートは、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素から エネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働き、別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- c. ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- d. 七物降下湯は、体力中等度以下で、顔色が悪くて疲れやすく、胃腸障害のないものの高血圧に伴う 随伴症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重）に適すとされる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,d) 4.(a,c,d) 5.(b,c,d)

5. 漢方処方製剤に関する記述について、誤っているものを一つ選べ。

1. 防風通聖散は、体力中等度以上で、赤ら顔でときにのぼせがあるものにきび、顔面・頭部の 湿疹・皮膚炎、赤鼻（酒さ）に適すとされるが、胃腸の弱い人では食欲不振、胃部不快感の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
2. 防己黄耆湯は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う 関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
3. 黄連解毒湯は、体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔い、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚の かゆみ、口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）では不向きとされる。

6. 強心薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. センソは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、有効域が比較的狭く、一般用医薬品では1日用量が5mg以下となるよう用法・用量が定められている。
- b. ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の 拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- c. ロクジョウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる作用があるとされる。
- d. リュウノウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜組成中に 病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

7. 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述について、誤っているものを一つ選べ。

1. 小児の疳は、乾という意味もあるとも言われ、瘦せて血が少ないことから生じると考えられており、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
2. 柴胡加竜骨牡蛎湯を小児の夜泣きに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、いったん服用を中止して、専門家に相談する等の対応が必要である。

3. ゴオウは、ジンチョウゲ科のジンコウ、その他同属植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
4. 小建中湯は、体力虚弱で疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱体質、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされる。

8. 泌尿器用薬とそれに配合される成分に関する以下の記述について誤っているものを一つ選べ。

1. 日本薬局方収載のウワウルシは、煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。
2. 八味地黄丸は、体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。
3. 尿量増加（利尿）作用を期待して、カゴソウ（シソ科のウツボグサの花穂を基原とする生薬）が配合されている場合がある。
4. 竜胆瀉肝湯は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

9. 婦人薬として用いられる主な漢方処方製剤に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 当帰芍薬散は、体力中等度又はやや虚弱で冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされる。
- b. 四物湯は、体力虚弱で、冷え症で皮膚が乾燥、色つやの悪い体質で胃腸障害のないものの月経不順、月経異常、更年期障害、血の道症、冷え症、しもやけ、しみ、貧血、産後あるいは流産後の疲労回復に適すとされる。
- c. 桂枝茯苓丸は、比較的体力があり、ときに下腹部痛、肩こり、頭重、めまい、のぼせて足冷え等を訴えるものの、月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、血の道症、肩こり、めまい、頭重、打ち身（打撲症）、しもやけ、しみ、湿疹・皮膚炎、にきびに適すとされる。
- d. 加味逍遙散は、体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾、打撲症に適すとされる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)

10. 毛髪用薬の配合成分に関する記述について、正しいものの組み合わせはどれか。

- a. 「壮年性脱毛症」、「円形脱毛症」等の疾患名を効能・効果に掲げた毛髪用薬は、医薬品及び医薬部外品として製造販売されている。
- b. カシウは、抗菌、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。
- c. カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）においてアセチルコリンに類似した作用（コリン作用）を示し、頭皮の血管を拡張し、毛根への血行を促す。
- d. チクセツニンジン（チクセツニンジン）は、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

1.(a,b) 2.(a,c) 3.(b,c) 4.(b,d) 5.(c,d)